



なぞって練習

源氏の恋人の六条貴女の邸は大きかった。広い美しい庭があった。家の中は気高く上手に住み馴らしてあった。まだまったたく源氏の物とも思わせない、打ち解けぬ貴女を扱うのに心を奪われて、もう源氏は夕顔の花を思い出す余裕を持っていなかったのである。

■ 参考

※貴女【きじよ】

※邸【やしき】

※気高く【けだかく】

(青空文庫のフリガナより)